

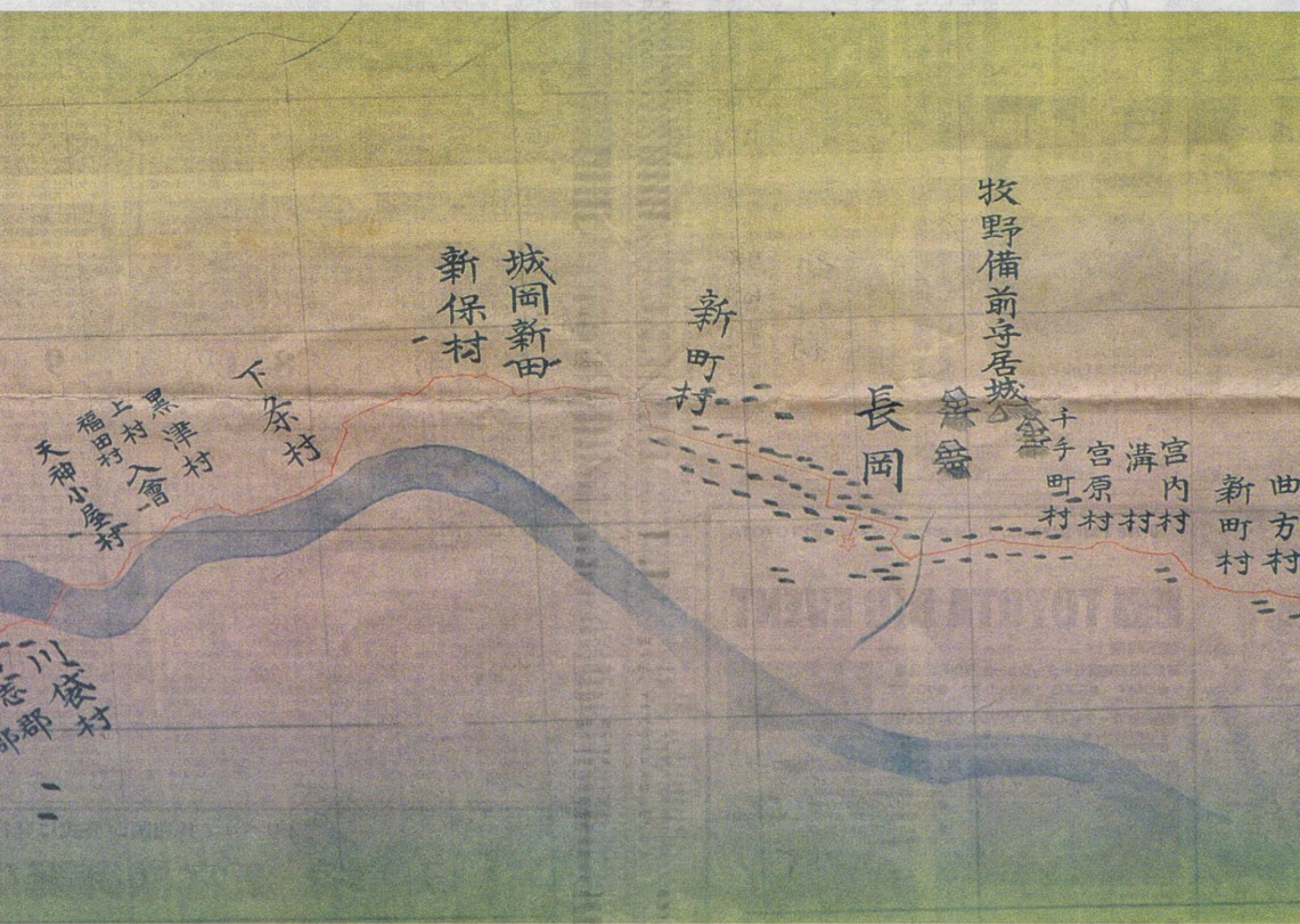
米国で発見された伊能忠敬の「大図」

江戸時代の測量家、伊能忠敬^{いのうただなか}（1745-1818年）が作製した「大日本沿海輿地全図」（伊能図）のうち、原本が失われている18地域分の「大図」の写しの写真をこのほど、東京の「伊能忠敬研究会」（渡辺一郎代表理事）が新たに入手した。大図は伊能図の中でも最も詳細で、1枚で1畳分の大きさがあり縮尺3万6000分の1。全部で214枚だが原本は焼失、写しも関東や九州の一部など約

60枚しか残っていない。

今回、写真を入手したのは、同研究会が昨年、米議会図書館で発見した写し207枚の一部。実用本位のため、原図にあった彩色が大部分、省略されており、忠敬の7代目の子孫で洋画家の伊能洋さん（67）らが色彩の復元作業を進めている。県内の足跡を示す大図3枚を紹介するとともに、郷土史家2氏に聞いた。

県内の足跡 鮮やかに



亀川

初めて目に
時としては作
な上、主要街
計測やルート
の道路地図に
ないレベルで
り、精度が高
訪に関する寺
板町史の記述
忠敬本人が実
ったことがよ
長岡より日
三国街道はこ
が少なく、そ
あまり知られ
た。その点で
底的に追いか
でしっかり描
能図の存在は
国街道の終点
ることをあら

長

伊能忠敬が
海日記」など
忠敬一行は、
る測量旅行の
越後入りして、
一八〇二年
測量では、
奥羽、庄内
を調査した
後、旧村上
領内に入っ
た。海沿いに新
高田を経て、
った。

翌年の「第
は東海、北陸か
出雲崎を経て